

観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



公益社団法人国際観光施設協会 広報委員長
オフィス M かねひら

兼平 慎

日本は梅雨に入りそうな季節。いち早く夏を楽しみたいとハワイに向かった。2023 年 5 月 30 日正午前ホノルルに到着しワイキキに 2 日間滞在後、ハワイ島のコナに飛んだ。島は 4 つの火山でできている。

コーヒー農園はフアラライ山の中腹にある。火山の弱酸性土壌はコーヒー栽培に最適で、ハワイ島のコナ地区では大小約 650 のコーヒー農園があり、島の主要産業になっている。コーヒーの木は個人でも育てていて、その家庭のオリジナルな味を楽しんでいるようだ。

空港から 30 分弱で「ドートールコー

ヒー・マウカメドウズ農園」に到着。案内をしてくださったのは元「神乃珈琲」マネージャーで、2019 年ハンドドリップチャンピオンシップで準優勝したバリスタの廣田 真麻さん。

農園は標高 450m から海に向かって広がり、広さは 33ac、そのうちコーヒー農園は 17ac、あとは植物果樹園。初めて見る赤い実をつけ始めたコーヒーの木に感動し、数々の南国の美しい花に魅了された。マカダミアの木から落ちた実や、赤く熟したライチを特殊な金具が付いた棒で採取し、その採りたての新鮮な実を食べるという予想外な体験も出来た。

コーヒーの木は農園全体で 1 万本もあり、その 6 割は個人が植樹したもので、ネームプレートが付けられている。コーヒーの木は約 1m 間隔で綺麗に整頓されて植えられ、日当たりと風通しがとても良い。赤く色づいた実を採り、中の白い種を口に入れると甘かった。

コナ地区のコーヒー農園は標高 300 ~ 1000m にある。標高によって収穫時期には差があり、味にも影響するようだ。夏から冬にかけて、赤く熟した実を手摘みで収穫する。

休憩所のテラスで、廣田さんがコーヒーを淹れてくれた。

このマウカメドウズ農園では、エスレートセレクト（コナスタンダードな豆）・スペシャルティリザーブ（高品質な豆）・エクストラファンシー（厳選された高品質な豆）・ピーベリー（希少な限定豆）の 4 種のコーヒーを販売している。最近、日本のホテルも高級化しているので、この特別感あるコナコーヒーはぜひお勧めしたい。

今回の旅の目的の一つは植樹である。現在、マウカメドウズ農園では植樹のサービスは行なっておらず、今回は特別とのこと。植えたのは 40 cm のアラビカ種の苗木で 3 年後には赤い実（レッドチェリー）になるとい、今から楽しみだ。帰り際に土砂降りの雨、でもすぐに止んだ。毎日のことでこれが高品質のコーヒーをはぐくむ環境なのだ。

翌日、「ヒロ市街と黒砂海岸・火山・星空鑑賞」の 400km ツアーに参加。大型ワゴン車で、ガイドのタケさんが迎えに来てくれた。コナの溶岩が固まった黒いゴツゴツした海岸を左手に見ながら走ると、海洋深層水で



コナの港からフアラライ山を見る



廣田真麻さん(左)と山内佳代さん

コーヒー農園と火山、星空が魅力のハワイ島の旅

公益社団法人国際観光施設協会 広報委員長
オフィス M かねひら

兼平 慎



ハレマウマウの火口



ガイドのタケさん

発電する会社の建物や鮑の養殖施設があり、島の新しい産業開発に取り組んでいる様子がわかる。

ヒルトンホテルが開発したワイコロアビレッジ（船やトラムで移動するような広大なリゾート地）に寄った。島を横断するダニエルKイノウエ・ハイウエーを走り、マウナケア山の麓を抜けた。標高 4205m の山からは、北と南半球の両方の星を見ることができ、一度は訪れたい場所だ。

その日は久々に晴れ渡り、山頂のすばる展望台が小さく見えた。山間には流れて来た溶岩が固まって出来たデコボコした台地が広がる。溶岩が高く吹き出した後の小高い山が幾つもあり、火山噴火の怖さを感じた。

黒砂海岸リチャードオーシャンパークでは、地元の人たちが海水浴を楽しみ、黒砂の上で日光浴をしていた。黒い砂を良く見ると、小さな緑色のペリドットの石が混ざっている。その透明な緑色の反射がツヤ感を生み、美しい黒砂となっていた。

夜の星空鑑賞の前に火山見学に向かった。キラウエア山は世界遺産にも登録され、世界でも最も火山活動

が盛んで、昨年末も噴火した。直径が 3～5km の楕円形のハレマウマウ（女神ペレの家）火口から水蒸気が吹き出していた。その近くに微かに赤い色が見えた。まさに地球の息吹を感じる眺めだ。

次に世界遺産の原生林の中にある溶岩トンネルに向かった。オヒアの木の下にボンボンのような赤い花を咲かせたフレア、巨大な葉のシダのハプー。それらの植物は、地球の長い歴史を感じさせる。

溶岩トンネル（サーストン・ラバ・チューブ）は 1521 年の爆発の溶岩流の外側が冷えてチューブ型に固まり、そのチューブの中を熱い溶岩が流れ出て空洞化してできた。トンネルの内側には溶岩が流れた痕が線状に残っていた。

山間の広い溶岩台地を走る道を通り、星空観測のためにマウナケア山へ戻った。灼熱の溶岩の流れがそのまま冷えて固まり、濃い灰色の流線模様を描いて広がっていた。マウナケア山の中腹に着いたが、夜になって雲が多くなり、おまけに満月で夜空が明るく、楽しみにしていた天の川銀河は見えなかったが、北極星と

微かではあるが双眼鏡で南十字星と一緒に見ることができた。

ハワイ島最後の日はいくイルア・コナの街散策。日差しは強くとても暑い「スカンジナビアン・シェイプアップ」で休憩し、地ビール工場「コナ・ブリューイング・カンパニー」へ向かった。

ホノルルに戻りワイキキの海でパラセーリングに初挑戦。海上 100m からワイキキに立ち並ぶホテル群やダイヤモンドヘッドを足元に眺めるような感覚。夕方はまだ明るく、ホテルのベランダから青く美しい海と、赤と白のプルメリアなどの南国の花が咲き誇る公園を見渡した。花々の間をたくさんのマヌオクやホンセイインコが飛び交う。

海を楽しむ人、サポートする人達、レストラン・ホテル・ショップやハワイアン踊りと音楽。美しい夕日を眺めて佇む人達、いつの間にかその中に馴染んでいる自分がいた。ハワイの環境にいつの間にか解け込んでしまい、ハワイアンの有名な曲カイマナヒラ（ダイヤモンドヘッド）を自然に口ずさんでいた。

連載

SERIES